

査定設計書における数量計算の表記に係る取扱いについて

これまで査定図面に集計表及び各計算式を記入することとしていた**数量集計表及び数量計算**について、**数量計算書として査定設計書に綴じることができる**こととします

目的：転記ミスの防止や査定設計書作成に関する作業の軽減

従来

数量集計表の例

※これまで査定図面に載せていた数量集計表は数量計算書へ移行

横断図

数量計算の例

掘削	= 2.8 - 2.65 - 45.1
盛土	= 1.5 - 1.00 - 17.0
床掘	= 3.2 - 2.60 - 44.2
埋戻(前面)	= 1.1 - 0.85 - 14.5
埋戻(背面)	= 1.7 - 1.65 - 33.0
裏込砕石	= 1.4 - 1.25 - 21.3

【拡大】掘削 — 2.8 — 2.65 — 45.1

断面数量 区間数量 累計数量

※これまで査定図面に記載していた区間数量、累計数量は数量計算書へ移行

新

査定設計書

令和7年度県管外工事費			
工事費	31,488	円	
消費税		円	
合計	31,488	円	

数量集計表

数量計算書

+

綴じる

● 留意事項

1 数量計算書の作成について

数量計算書は、「土木工事数量算出要領（案）」（国土交通省・最新版）により行うものとし、算出した結果は、「土木工事数量算出要領数量集計表（案）」（国土交通省・最新版）に基づき、工種別、区間別に算出すること（山口県土木工事共通仕様書より抜粋）

2 朱入れ前の修正及び検算について

(1) 査定結果の反映

ア 修正がない場合

特に記載の必要はない

イ 修正がある場合

- 修正した数量計算書は、**修正した箇所を赤系の色にて塗りつぶす**
- 修正前の数量計算書は、**赤書き訂正もしくは上余白に赤系の色で修正前」と記載**

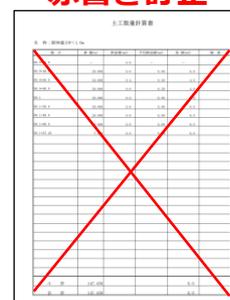
修正した
数量計算書

修正後の数量を赤系の色にて塗りつぶす

土工 計算書						
測点	距離(m)	掘削:オープン			立坑	
		断面積(m ²)	平均断面積(m ²)	立坑(m ³)	断面積(m ²)	平均断
B.P	0.0	2.1				
No.1	10.0	2.4	2.25	22.5		
No.1+5.10	5.1	1.1	1.75	8.9		
No.2	4.9	3.1	2.75	13.5		
E.P	10.0	3.5	2.30	23.0		

修正前の
数量計算書

赤書き訂正



もしくは

上余白に赤系の色で
「修正前」と記載

修正前

土工 計算書						
測点	距離(m)	掘削:オープン			立坑	
		断面積(m ²)	平均断面積(m ²)	立坑(m ³)	断面積(m ²)	平均断
B.P	0.0	2.1				
No.1	10.0	2.4	2.25	22.5		

(2) 検算

検算はこれまでどおり確実に実施すること。なお、検算により修正の必要が生じた場合の作業は、「(1) 査定結果の反映」に準じて行う。

※修正前の数量集計表及び数量計算表も査定設計書に添付すること